

第3章 つくばみらい市のめざす食育

1 基本理念

食育を、生きる上での基盤とし、生涯にわたって心身の健康を養い、豊かな人間性を育む

2 施策の柱

(1) 望ましい食習慣の基礎づくり

食に関する知識と食を選択する力を習得し、望ましい食生活を送ることは、生涯を健康で人間性を豊かなものとする基礎となります。

特に、子どもの頃に身に付いた食習慣を大人になって改めることは難しいことから、子どもへの食育は大切です。学校、家庭、地域社会と連携し、子どもへの食育を通じて大人自身もその食生活を見直し、食に対する意識の向上を図ります。

(2) 地域の食文化の継承づくり

食材・人・場所などの地域資源を活かしたふれあいや交流を通じて、地域の農産物を活用した市の味や食文化、環境と調和した食料生産の大切さを伝え、食に対する感謝の気持ちと郷土の魅力を実感できる食育を推進します。

特に次代の担い手である子どもやその保護者等が、食の大切さと食を通じた市の魅力を実感できる食育を推進します。

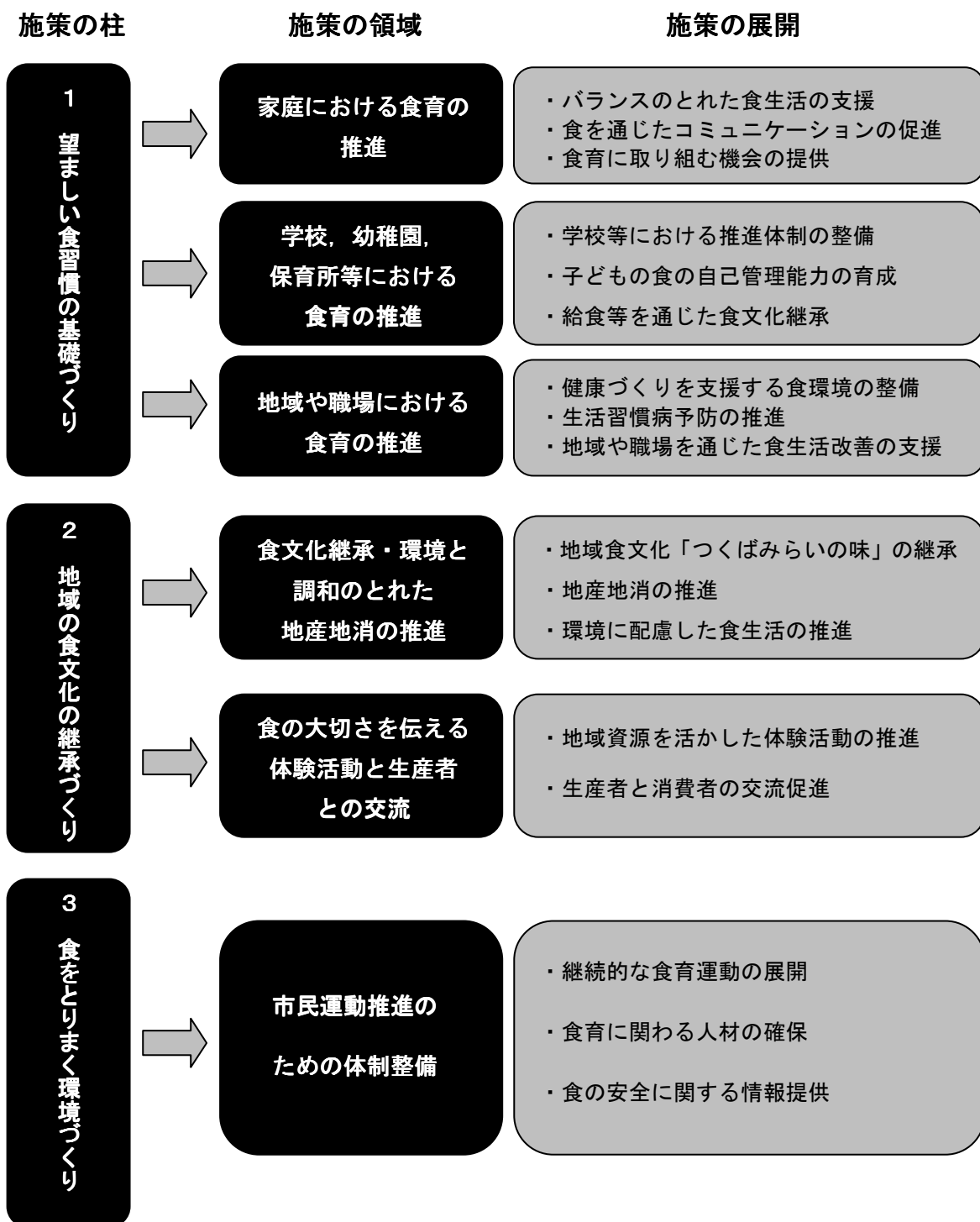
(3) 食をとりまく環境づくり

食に関する情報が社会に氾濫する中、消費者が食に関する正しい情報を適切に選択、活用することが難しくなっています。市民が、健全な食生活に欠かせない食に関する知識や判断力を身につけ、身近なところから食育に取り組む機会が得られるよう、各関係機関と連携しながら、継続的な食育運動の展開や食に関わる人材の確保、情報提供を推進します。

3 施策の体系

基本理念

食育を、生きる上での基盤とし、
生涯にわたって心身の健康を養い、豊かな人間性を育む



4 主な指標と数値目標

施策の柱	指 標	H21 現状値	H27 目標値	H22 県目標値	
1 望ましい食習慣の基礎づくり	いつも朝食を食べる子どもの割合	幼児	96.7%	100%	100%
		小学生	94.9%	100%	100%
		中学生	82.2%	100%	100%
	朝食を欠食する成人の割合	20歳代男性	35.0%	15%以下	15%以下
		30歳代男性	11.8%	10%以下	15%以下
	家族と共に夕食を食べる子どもの割合	幼児	92.0%	100%	100%
		小学生	91.3%	100%	100%
		中学生	79.1%	95%	95%
	食事のあいさつをする子どもの割合	幼児	92.0%	100%	100%
		小学生	83.6%	100%	100%
		中学生	75.7%	100%	100%
夕食の調理を手伝っている割合 (週3回以上)	小学生	9.3%	50%	50%	
	中学生	18.6%	50%	50%	
	食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている市民の割合	34.7%	60%以上	60%以上	
	メタボリックシンドロームの言葉と意味を知っている市民の割合	85.7%	95%以上	80%以上	
2 地域の食文化の継承	学校給食における地場産品を使用する割合 (茨城県産+市内産の食材使用割合,食材数ベース)	31.0%	35%	35% (H27)	
	1週間あたりの米飯給食回数	3.3回	4回以上	3.5回以上 (H27)	
3 食をとりまく環境	食育に関心を持っている市民の割合		73.7%	90%以上	90%以上
	食に関するボランティアの数	食生活改善推進員	48人 (H22)	50人	県で6,000人 (H27)
		食育推進ボランティア	7人 (H22)	10人	県で650人 (H27)
	食に対する不安を感じる市民の割合		79.9%	50%未満	50%未満 (H27)